いわき総合図書館　地域資料展示コーナー

平成 24 年度後期常設展示

青春の足跡展

―高校の出版物―

■会期　平成 24 年 10 月 5 日(金)―平成 25 年 3 月 24 日(日)

※毎月の最終月曜日と1月1日は休館

■会場　いわき総合図書館　5階地域資料展示コーナー

いわき市立いわき総合図書館

□ はじめに

明治29年（1896）開校の旧制磐城中学校から、戦後の新学制により昭和23年（1948）に発足した新制高等学校では、校友会誌・同窓会誌・生徒会誌・文芸部誌など様々な出版物が発行されました。

後期常設展示では、明治後期から昭和までに発行された市内高等学校（旧制中学校・高等女学校含む）の出版物を紹介し、当時の高校生の「青春の足跡」に触れていただきます。種別に発行年の古い順から紹介しました。併せて学校の略沿革をつけました。

□ 校友会雑誌･校友会誌

■「校友会雑誌」「校友会誌」「修練隊誌」　旧制磐城中学校　（現在・磐城高等学校）

校友会は明治 36 年（1903）に発足。学校長が会長、在校生徒を普通会員、現職員を特別会員、旧職員と卒業生を客員として、「師弟学友の情誼を篤くし、進みて善良なる校風を扶植する」ことを目的としました。

第1号は明治36年9月、明治45年7月の11号までの誌名は『校友会雑誌』、大正2年（1913）7月の12号から『校友会誌』と変わりました。以後、昭和17年（1942）3月の38号まで続きました。38号は「修練隊誌」第1号でもありました。これは、戦時下で修身・体練を一つにした「修練」を学校組織に転換する指示の下、「校友会」が「修練隊」に改組されたためでした。

各号の内容は、口絵写真には卒業生の写真など、文芸欄は「文苑」として、会員の文芸作品の発表の場、講演会記事、校報・校況は学校の行事・動向、校友会報告は規則・役員・決算、そして同誌の根幹となる部活動報告が掲載されました。また、表紙絵・カット絵に教師や生徒の作品が使われました。

磐城高等学校　　明治29年（1896）5月、福島県尋常中学校磐城分校は、平揚土台（現在・平一小）に開校しました。同31年に独立昇格して福島第二尋常中学校に、翌32年に5年制の福島第二中学校となり、同34年には福島県立磐城中学校となりました。大正13年（1924）、平高月（現在・校地）の新校舎に移転。昭和23年（1948）4月、新学制により県立磐城高等学校となりました。同26年、校舎が全焼し、旧寄宿舎・磐城女子高校・平第三中学校・平第五小学校の分散授業を経て、同28年に校舎（旧校舎）が再建されました。昭和54年に4ヵ年の校舎改築工事により現校舎が完成しました。

□ 校友会会誌

■「校友会会誌」　磐城高等女学校（現在・磐城桜が丘高等学校）

校友会は明治37年（1904）に発足。学校長が会長、会員は生徒・職員とし、「本校生徒の修養に質し懇親」を目的としました。県立昇格後は、校長が会長、職員生徒を内部会員、卒業生を外部会員とし、「師弟卒業生学友間の情誼を厚くし且本校教育の趣旨を体し校風の発揚」することを目的としました。昭和16年（1941）、校友会は修練隊に改組されました。

「校友会会誌」の第1号は大正2年（1913）7月、昭和16年（1941）3月の26号まで続きました。各号の内容は、口絵、巻頭の辞は会長の文、講演、校報は各行事の概況・

日誌・教務分担、思華は教師生徒の研究発表、文苑は作文、通信は修学旅行だより、詩華は俳句・短歌・童謡・詩、部報は体育部報・文芸部便り・音楽部便り・園芸部便り・決算報告などでした。

磐城桜が丘高等学校　明治37年（1904）7月、私立磐城女学校は、旧城跡に開校しました。平町が新校舎(桜町)の敷地買い上げ経費を県に寄付するなどの昇格運動により、同45年4月に県立磐城高等女学校になりました。昭和23年（1948）4月には新学制により県立磐城女子高等学校となり、その時、同17年創立の平市立平高等女学校の生徒を吸収しました。平成13年（2001）4月に男女共学校化により、磐城桜が丘高等学校と校名がかわりました。昭和44年（1969）に4ヵ年の校舎改築工事により現校舎が完成しました。

□　商友会報･学友

■「商友会報」　平商業補習学校・平商業学校・平商業高等学校

商友会は大正5年（1916）3月に発足。学校長が会長、卒業生を正会員、現職員・旧職員を特別会員、本校に関係ある知名の士にして本会の推薦によるものを名誉会員として、「同窓者ノ親睦友誼ヲ厚クシ兼テ母校ノ発展ト後進者ノ有掖ヲ計ル」ことを目的としました。昭和4年（1929）に商友会は学校から離れて独立の同窓会となりました。

「商友会報」第1号は、大正6年3月、昭和18年（1943）には創立30周年記念号として23号が発刊されましたが、以後、中断。24号が出たのは戦後・同23年でした。

■「学友」　平商業学校(現在・平商業高等学校)

校友会の活動は、文芸では図書部・弁論部、運動では庭球部・野球部、武道では柔道部・剣道部・弓道部などが大正期にはあり、昭和3年（1928）の校舎移転後、活発になりました。「学友」は当初、「校友会雑誌」の誌名で昭和5年に創刊され、その後、「学友」に変わりました。内容は、校歌、口絵写真、巻頭の辞は会長の文、寄稿、論説、研究、紀行、文苑、小品、就職試験体験記、卒業生の弁、詩藻、短歌、俳句、部報など。特質すべきは研究で、「郷土工業調査　製材工場見学」「平市における廃物調査」は、実地調査と正確な分析によるものでした。

平商業高等学校　大正2年（1913）5月、平町立平商業補習学校は、平第1尋常高等小学校の一部を間借りして開校しました。同9年3月に田町校舎が完成、5月に乙種（修業年限3ヵ年）の福島県平商業学校と改称。昭和3年に校舎を揚土台・磐城中学校の旧校舎に移し、同5年（1930）には甲種（修業年限5ヵ年）に昇格しました。昭和14年には平市三崎町の校舎に新築移転しましたが、同20年（1945）7月28日の空襲で同校舎は焼失。元平陽女学校校舎をへて、戦後、昭和22年、三崎に校舎を再建しました。翌23年4月、新学制により平女子商業学校を吸収して県立平商業高等学校（男女共学）と改称。同37～41年には平中塩の新校舎（現在地）に移転しました。

□　同窓会

■「桜丘会会報」　磐城高等女学校(現在・磐城桜が丘高等学校)

同窓会は大正２年（1913）７月に発足。昭和７年（1932）７月には同窓会の名称は「桜丘会」となりました。昭和50年（1975）からは、「桜丘会報」が創刊されました。

■「同窓会会則」　平工業学校・平第二工業学校(現在・福島県立平工業高等学校)

第1回卒業生の繰り上げ卒業・昭和17年（1942）12月27日にあわせてつくられた同窓会会則。会員は平工業学校と平第二工業学校の卒業生徒。

平工業高等学校　昭和15年（1940）5月、甲種（修業年限3ヵ年）の県立平工業学校は、揚土台仮校舎（旧磐城中学校講堂）に開校しました。翌16年に平市字梅本（現在いわき市役所の場所）に新校舎が完成し移転、翌17年4月からは県立平第二工業学校（定時制4ヵ年）が併設されました。同20年（1945）3月10日の空襲で全焼、平商業学校で授業となりますが、そこも空襲で全焼、磐城中学校他に間借りしての隔日授業となりました。戦後、梅本で校舎を再建、昭和23年4月、新学制により県立平工業高等学校（全日制）になりますが、校舎の整備が終わるのは翌24年10月でした。同43～47年、いわき市平下荒川字中剃に校舎新築・移転をしました。

■　「菊芳会員名簿」植田高等学校同窓会　昭和25年3月

昭和17年（1942）4月設立の町立植田実科高等女学校(翌年・植田高等女学校)は、同23年（1948）4月、新学制により県立植田高等学校となりますが、翌24年7月に県立磐城農業高等学校に統合されました。同17年から同24年まで卒業生・職員の名簿。

■「創立七周年／同窓会合併／新校舎落成　記念号　同窓会会報」第三号

磐城農業高等学校同窓会　昭和25年9月

同窓会は第1期生の卒業式の昭和22年（1947）3月15日に結成。「会員相互の親睦を厚くし、母校との関係を密接ならしめ、協力膠力農業の改善発達、母校の発展を図る」を目的とし、会員は、磐城農業高等学校の卒業生が通常会員、旧植田女高卒業生を会友、在校生を準会員、現職員を賛助会員とするものでした（同25年の会則)。

磐城農業高等学校　昭和19年（1944）4月、県立磐城農業学校は、旧私立磐城青年学校(平市六間門)を仮校舎にして開校しました。同20年、植田に校地・農場用地を得ましたが、校舎建設は進まず分散授業。同22年、仮校舎を解体して現校地（植田町後田・現在は小名田）に建てたのでした。昭和23年4月、新学制により県立磐城農業高等学校となり農業科1学級・被服科1学級が置かれました。更に分校が上遠野・小名浜・勿来に置かれました。翌24年7月には県立植田高等学校を統合。同34年、前年の機械科の新設に伴い磐城農工高等学校と校名は改称しましたが、同37年4月、勿来工業高等学校に機械科が統合されたことにより、校名は磐城農業高等学校に戻りました。

□　生徒会誌・学生会誌・新聞

■「あゆみ」　磐城女子高等学校(現在・磐城桜が丘高等学校)

生徒会は昭和24年（1949）7月に発足。翌25年の生徒会手帳（翌年から生徒手帳）には、生徒会の目的「会員の健全なる自主活動により理想的自治の完成を期することを目標とする」（生徒会規約）が掲載。生徒会誌「あゆみ」は、昭和30年3月に創刊されました。

■「磐城高新聞」磐城高等学校

戦後の昭和23年（1948)、復活した校友会文学班により5月「磐高ニュース」が創刊。翌24年5月、文学部から分離独立した新聞部により「磐高新聞」がつくられました。同28年の30号から「磐城高新聞」と改題、さらに一時期(39号から48号)「The Iwakiko

Shinbun」となりましたが、同32年の49号から再び「磐城高新聞」に戻りました。

■「生徒会誌」磐城高等学校

生徒会は昭和24年（1949）に発足。同30年11月にガリ版「生徒会報」が創刊されましたが、全生徒に配布されず、その役割を担ったのが「The Iwakiko Shinbun」や「磐城高新聞」の卒業特集号でした。「生徒会誌」は同37年（1962）1月に創刊されました。

■「層」四倉高等学校

生徒会は昭和24年（1949）に発足。生徒会の初期の活動は、独立校舎の建設資金のためのイナゴ取りや海水浴場でのキャンデー売りでした。生徒会誌「層」は昭和36年（1961）2月に創刊されました。誌名は「先輩であることを忘れ、後輩であることを忘れて、共通の基盤に育ったというだけの意識で、横に手をつなぎ、良い四倉高校と、良い日本をつくる〈層〉になろう」の意味でした。

四倉高等学校　前身は町立四倉実践商業水産学校、後の大洋青年学校。昭和23年（1948）4月、新学制により県立四倉高等学校は、四倉町館下に開校しました。定時制課程農業科1学級・家庭科2学級、同年7月に大野・神谷に分校を開設し家庭科1学級が置かれました。同24年には本校に水産製造科1学級・普通科2学級が増設されました。同26年に神谷村と平市の合併により神谷分校は廃止。同年11月に本校は四倉町字5丁目の新校舎に移転しました。同31年には大野分校を廃止。同46～49年に校舎の改築工事が行われました。

■「なつい」平商業高等学校

生徒会は昭和24年（1949）に発足。創立55周年の昭和38年（1963）2月に生徒会誌「なつい」は、創刊されました。特集、就職、生徒会、文化クラブ・運動クラブ、クラス百景（卒業生から一言）など。

■「ひびき」平工業高等専門学校(現在・福島工業高等専門学校)

学生会は昭和38年（1963）4月に発足。学生会誌「ひびき」は、同40年2月に創刊されました。

■「磐陽台祭」昭和40年9月　平工業高等専門学校(現在・福島工業高等専門学校)

第1回磐陽台祭[昭和40年（1965）10月1～3日]のパンフレット。昭和39年5月に校地愛称を学生から募り「磐陽台」と名づけられたことから、「磐陽台祭」となりました。

■「福島高専新聞」20号　福島工業高等専門学校　昭和56年

「福島高専新聞」20号、昭和56年（1981）12月24日、タブロイド版4頁、第一面は「就職先ほぼ決定/高まる地元志向」。学生会外局新聞局が発行。

福島工業高等専門学校　昭和37年（1962）4月、国立平工業高等専門学校（修業年限5ヵ年）は、仮校舎・仮寄宿舎（元県立平盲聾学校・平市才槌小路）にて開校しました。学科は機械工学科・電気工学科・工業化学科、同年、全国で12校、東北では1校の設置でした。翌38年4月に平市上荒川字長尾（現在・いわき市平上荒川）の新築校舎に移転。同41年4月に土木工学科が新設されました。翌42年6月には校名を福島工業高等専門学校に改称しました。

■「きくた」　勿来工業高等学校　第5号　昭和41年2月

開校の昭和36年（1961）に生徒会は発足。旧郡名・菊多を誌名として生徒会機関紙

「**きくた**」が発行されました。われらの信条「一、われらは真理と正義を愛し、民主的学園をつくろう。二、われらは勤労と責任を重んじ自他の敬愛と協力を尊び、平和的な学徒となろう。三、われらは全力をつくして学習し、すぐれた豊かな職業人になろう。」が掲載。

勿来工業高等学校　昭和33年（1958）4月、磐城農業高等学校の機械科は、廃校となった植田高等学校の跡地（植田町堂の作）に新設されました。翌34年に本校の校名変更に伴い磐城農工高等学校機械科となりました。同35年、工業科関係が移転。同36年には県立勿来工業高等学校が開校し、翌37年、磐城農工高等学校機械科は、勿来工業高等学校に統合されました。

■**「歯車」**平工業高等学校

生徒会は昭和24年（1949）4月に発足。生徒会誌「**歯車**」は、学校創立25周年の年＝昭和41年（1966）2月に創刊されました。生徒会・クラブ活動の1年間、生徒の卒業への思い、在校生の工場見学記、クラス紹介、後輩にのこす（卒業生一人一言）などが掲載。

■**「さはこ」　第23号**　湯本高等学校　昭和40年2月

生徒会は昭和24年（1949）5月に発足。文芸クラブより受けついだ機関紙「**さはこ**」第23号には、生徒会1年間の歩みとして、昭和39年（1964）10月から同41年2月まで様々な行事(同39年11月15日の学校火災も）が掲載。

■**「第一回さはこ祭」**湯本高等学校　昭和42年11月22～23日

第一回さはこ祭のプログラム。会場・催し・発表展示の案内など。

■**「湯高新聞」**湯本高等学校

生徒会は昭和24年（1949）5月に発足。翌6月20日には生徒会図書部により「**湯高新聞**」が発行されました。タブロイド版6頁、初代会長の言葉「新しい時代の新しい学校は私達によって私達の力を盛りあげてこしらえなければならない」が掲載。60号は第一回の文化祭「**さはこ**祭」[昭和42年（1967）11月22～23日]の特集記事。

湯本高等学校　昭和17年（1942）4月、湯本実科高等女学校は、湯本町国民学校の校舎の一部を借りて開校しました。翌18年に湯本高等女学校と改称。戦後、同22年に県移管により県立湯本高等女学校となり、翌23年4月には新学制により県立湯本高等学校になりました。同25年に湯本第二高等学校を併設、翌年には統合しました。新校舎は昭和39年度（1964）に完成。平成23年3月11日の東日本大震災で校舎が被災、5月から全学年がいわき明星大学で授業しましたが、8月からはグランドに設置の仮設校舎にて授業をしています。

■**「関跡」**勿来高等学校

生徒会は昭和24年（1949）4月に発足。当時の生徒会機関紙はガリ版「桜関」。昭和42年（1967）2月、生徒会機関紙「関跡」が創刊されました。誌名は生徒からの公募により選ばれました。創刊号には生徒会・クラブ活動の1年間、先輩寄稿、県下一のL・H・Rについて、今年の就職状況、晴れの就職内定者、クラスの横顔などが掲載。

勿来高等学校　昭和23年（1948）8月、新学制により県立磐城農業高等学校の勿来分校は、大日本炭鉱青年会館(勿来町酒井出蔵)を仮校舎に開校しました。同26年に分校から磐城農業高等学校第二部となり、同28年2月に新校舎(勿来町大字窪田町尻)が

完成し移転。同年４月には独立して県立勿来高等学校になりました。

■**「青雲」第４号**　好間高等学校　　昭和42年２月

独立認可の昭和38年（1963）頃、生徒会会誌「青雲」が創刊。第４号は報道委員会の編集で、昭和41年度の生徒会活動行事・クラブ活動報告のほかに「10代のこだま」（卒業生の一言）と「卒業する諸君へ」（教師寸言）が掲載。

<u>好間高等学校</u>　　昭和23年（1948）４月、好間村青年学校を廃止し、新学制により県立内郷高等学校の好間分校は、農業科・被服科（定時制昼間部）の２学級で開校しました。９月に夜間部普通科１学級が増設。同29年１月に校舎新築完成、同年４月には内郷高等学校好間第二部に昇格し全日制課程開設が認可されました。同38年４月には独立して県立好間高等学校になりました。同55～57年に校舎の改築工事が行われました。

■**「ＦＲＯＮＴＩＥＲ」10号**　いわき光洋高等学校　平成17年３月

生徒会会誌「ＦＲＯＮＴＩＥＲ（フロンティア）」の誌名は、「新しい領域の開拓に挑戦する本校のイメージから名づけ」られました。10号には中央台校舎最初の卒業生の「旅立ちの言葉」が掲載。

<u>いわき光洋高等学校</u>　　平成５年（1993）４月、全国初の全日制・単位制高校として、県立いわき光洋高等学校は、開校しました。県立**いわき中央高等学校**（内郷綴町板宮）は廃校となり、同校の在学生はいわき光洋高校（定時制）　に編入されました。平成16年４月、中央台高久に校舎を移転。定時制は旧校舎にて「**いわき翠の社高等学校**」として独立しました。同17年からいわき光洋高校といわき明星大学との高大連携は開始されました。

□　部誌（文芸）

■**「かをり」「めばえ」「閼伽井」**

磐城高等女学校・磐城女子高等学校（現在・磐城桜が丘高等学校）

磐城高等女学校時代、「校友会会誌」に掲載される文学作品が多いことから、昭和９年（1934）から**「かをり」「めばえ」**の２冊が「文集」としてつくられましたが、時局下物資節約の廃刊となったのは同15年でした。戦後、文芸部の部誌として、**「閼伽井」**が昭和24年（1949）７月に創刊されました。

■**「高月集」「磐城文学」「造形」**旧制磐城中学校・磐城高等学校

磐城中学校時代、生徒の文芸発表の場として、「校友会雑誌」「校友会誌」の「文苑」があり、昭和16年（1941）に発足した修練隊には「文芸班」が置かれ、短歌・俳句集の**「高月集」**（学芸班研究部）が発行されました。戦後の昭和23年（1948）、校友会文学班により５月「磐高ニュース」がつくられ、文芸を志す生徒により翌24年２月、**「磐高文学」**が創刊されました。同26年７月に「磐高文学」は誌名を**「造形」**と変え、同28年11月に「造形」は「高月文学」となり、同29年12月に「高月文学」は「磐高文学」に戻りました。

■**「潮風」創刊号**　磐城農業高等学校　昭和25年７月

文芸クラブが、「自己の真実と生活とをこの中にあらわして行きたい（創刊之辞の１部）と、昭和25年（1950）７月に創刊した文芸誌**「潮風」**。編集兼発行人は蛭田二郎（3年生）、特別寄稿が学校長と定時制主事、生徒の作品は短歌・小品文・俳句・詩集・創

作など。

■「さはこ」第5号　湯本高等学校　昭和25年12月

文芸部による文芸誌「さはこ」第5号は、第2回湯高祭にあわせて湯高祭記念号として、昭和25年（1950）12月23日に発行されました。「さはこ」は後に生徒会の機関紙に誌名が引き継がれました。

■「寂光」第2号　湯本高等学校　昭和42年11月

文芸部による文芸誌「寂光」第2号は、昭和42年（1967）11月に発行されました。随筆・詩・評論・短歌・創作など43篇の文学作品を掲載。

■「稲園」第2号　磐城農業高等学校上遠野分校（現在・遠野高等学校）昭和26年3月

上遠野分校学芸クラブが、昭和26年（1951）3月に発行した機関紙「稲園」・第2号。顧問は教師の竹田貞生、文芸作品以外に郷土誌研究や研究論文も掲載。

遠野高等学校　　昭和23年（1948）5月、新学制により磐城農業高等学校の上遠野分校（定時制）は、上遠野村登記所・森林組合事務所・上遠野小学校の1教室を借りて開校しました。農業科と被服科の2学級が置かれました。同28年に全日制課程を設置できる磐城農業高等学校・上遠野農業部となり校舎（遠野町字赤坂）が完成。同37年に家庭科が廃止、同38年には農業科が廃止となり、同38年4月、独立して全日制普通科2学級の県立遠野高等学校となりました。同57～59年には校舎の改築工事が行われました。

■「吹松」小名浜高等学校

創作クラブ（後に文芸部）が、発行した文芸誌「吹松」。誌名は当時校舎があった「吹松一番地」からでした。昭和27年（1952）2月に創刊、定時制学生の作品を含む生徒の作品の他に教諭熊田正夫が「中国冥婚小考」を寄稿。

■「蛍光燈」季刊　第四号　小名浜高等学校　昭和30年3月

定時制文芸部は、昭和29年（1954）11月に誕生しました。機関紙「季刊　蛍光燈」の発行は定時制生徒会。文芸部の歌「筆とりて小名が浜辺/佇めば　ああ文友の」「詩を読めば月も冴える/たのもしさ　ああ文芸部」が掲載。

小名浜高等学校　　明治40年（1907）5月、町立小名浜実業補習学校は、小名浜小学校内に開校しました。昭和4年（1929）に小名浜実業学校（修業年限4年）と改称。戦後、昭和22年3月に校舎を吹松に移転、翌23年4月、新学制により小名浜高等女学校と統合し町立小名浜高等学校になりました。同じ頃、磐城農業高等学校の定時制小名浜分校が併置され、10月、定時制が県立小名浜高等学校になりました。昭和25年3月、町立小名浜高等学校が県立に移管し定時制と統合されました。昭和42年（1967）7月に校地を小名浜下神白字武城に移転しました。

いわき海星高等学校　　昭和9年（1934）4月、福島水産講習所（修業年限2年）は、県立水産試験場に併設され開校しました。漁労科・水産製造科が設置。同11年に試験場とともに小名浜栄町に移転。同18年には修業年限5年の小名浜水産学校になり、戦後の昭和23年（1948）4月、新学制により県立小名浜水産高等学校になりました。同34年に校地を小名浜下神白に移転。平成7年（1995）4月には校名変更により、いわき海星高等学校となりました。

■「**榎苑**」内郷高等学校(現在・いわき総合高等学校)

図書館と文芸部による文芸誌「**榎苑**」は、昭和28年（1953）7月に創刊。同年11月に2号が発行。文芸作品も多くあり、さらに音楽鑑賞「田園交響曲」、良書紹介、近代絵画の鑑賞「ピカソ作ゲルニカ」、放送劇シナリオ、第一回校内弁論大会の紹介など充実の文集。

いわき総合高等学校　前身は大正3年（1914）の内郷村立農業補習学校。同12年に内郷農業補習学校と改称、翌13年には内郷村立家政女学校が、綴字榎下に開校しました。昭和18年（1943）に内郷町立青年学校と改称。戦後の同23年4月、新学制により県立**内郷高等学校**となり、普通科1学級・家庭科2学級(定時制昼間部)が置かれました。また、好間に分校が置かれました。同31年から全日制家政科が置かれました。同38～42年に内郷内町駒谷の新校舎に移転しました。平成16年4月からは総合学科転換に伴い、校名は「**いわき総合高等学校**」と変わりました。また、内郷高等学校の定時制夜間課程は、平第二高等学校と合併して、昭和44年（1969）にいわき**中央高等学校**として発足しました。

■「**梅林**」平工業高等学校

文芸部の始まりは昭和24年度（1949)、文芸誌「梅本文学」が発行されました。同30年代に中断しましたが、昭和37年（1962）に再開しました。同年、創立20周年記念として図書館が寄贈され、階段下の小部屋を部室として文芸部が使用、翌年2月に生まれたのが文芸誌「**梅林**」でした。

□　部誌(その他)

■「**郷土**」磐城女子高等学校(現在・磐城桜が丘高等学校)

郷土研究部により昭和25年3月「**郷土**」が創刊。誌名は「郷土の歴史を理解するにはあらゆる観点からこれを研究しなければならないと云う」広範囲な意味でした。

■「**高月の声**」第一号　磐城高等学校

「社研」が「社会科クラブ」に、「ドングリ」が「**高月の声**」に変わり、昭和26年（1951）7月に「**高月の声**」の第一号が発行されました。

■「**あかでみあ**」平商業高等学校

昭和40年（1965)、商業社会研究会がつくられ、相馬郡・飯舘村・比曽（ひそ）の小学校との交流をきっかけとして7年間の調査・交流が続きました。部誌「**あかでみあ**」第1号は同40年に発行されました。謄写版の雑誌を年2回、同48年2月の16号まで発行。

■「**研究内容及び説明書**」湯本高等学校　昭和42年度

社会クラブ、当時の部員は1年15名、2年13名、3年9名の37名。「さはこ祭」で発表するために、いわきの古代、中世、近世、近代の歴史をまとめたもの。

■「**家庭クラブだより　麦の穂**」勿来高等学校

家庭クラブの機関紙「**家庭クラブだより　麦の穂**」は、昭和36年度（1961）に創刊されました。「相互協力して教養を高め、社会性と趣味の向上を計ると共に、ホームプロジェクトの実践と体験を通じて自主創意の精神を培うこと」を目的とし女子生徒により組織されていました（第6号の家庭クラブ規約)。

■ 「はまなし」N06　四倉高等学校　昭和48年3月

生物クラブの部報「はまなし」N06 には、会津駒ヶ岳および尾瀬沼の植物調査、三ッ森渓谷植物調査、藤間海岸の植物群落などが掲載。

■「磐陽」第2号　福島工業高等専門学校　昭和48年6月

昭和37年（1962）の開校当初から寄宿舎はあり、昭和39年、平上荒川へ移転後の寄宿舎は「磐陽寮」と名づけられ、寮生会により寮誌が発行されました。

■「枳殻」磐城高等学校　昭和34年3月

クラス文集　昭和34年（1959）卒業3年4組の見城五郎担任の生徒が編集したもの。「枳殻」の編集責任者・星弘幸、発行責任者・上遠野洋明、印刷所は氾濫社。

■ 参考図書

『創立四十年誌』福島県立平商業高等学校　昭和28年

『平商六十年誌』福島県立平商業高等学校創立六十周年記念誌編集委員会　昭和49年

『磐農高十五周年史　創立十五周年記念』福島県立磐城農業高等学校同窓会　昭和34年

『磐女高55年史』福島県立磐城女子高等学校施設拡充期成同盟会　昭和34年

『桜丘の百年　福島県立磐城桜が丘高等学校創立百周年記念誌』
福島県立磐城桜が丘高等学校創立百周年記念事業実行委員会　平成17年

『創立十周年記念　十年史』福島工業高等専門学校　昭和47年

『創立30周年記念誌　層』福島県立四倉高等学校　昭和52年

『三十五年誌』福島県立好間高等学校　　昭和57年

『創立四十周年記念誌』福島県立勿来高等学校　昭和62年

『平工高五十年史』福島県立平工業高等学校創立50周年記念事業実行委員会　平成2年

『湯本高校五十年史』創立50周年記念事業実行委員会・発行　　平成3年

『創立50周年記念　湯高新聞縮刷版』福島県立湯本高校出版局　平成3年

『創立百年』福島県立磐城高等学校同窓会　平成8年

『内高五十年史』内郷高校50周年記念事業実行委員会　　平成9年

『創立50周年記念誌　新たなる伝統の創造』
福島県立勿来工業高等学校創立50周年記念事業実行委員会・発行　平成22年

『蒼き光　創立20周年記念誌』
福島県立いわき光洋高等学校創立20周年記念事業実行委員会　平成24年

いわき総合図書館　地域資料展示コーナー　平成24年度後期常設展示

<u>青春の足跡展―高校の出版物―</u>

編集・発行　いわき市立いわき総合図書館
発行日　　平成24年10月5日
会　期　　平成24年10月5日―平成25年3月24日